

福岡市共働事業提案制度

事業の進捗状況資料(令和3年度)

福岡市共働事業提案制度 平成 29 年度採択事業



FUKUOKA
おさかなレンジャー
～ 海底ごみから博多湾を守れ!～

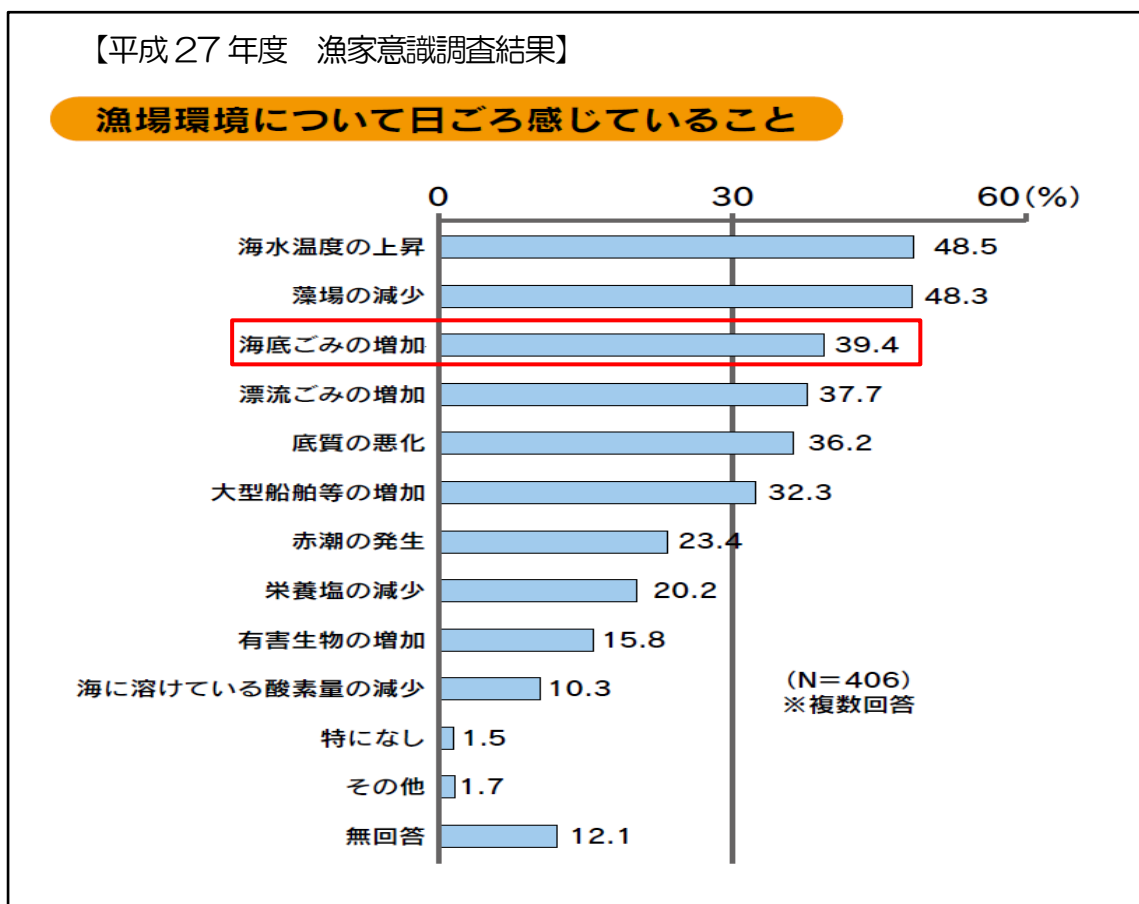
FUKUOKAおさかなレンジャー実行委員会

《一般社団法人ふくおかFUN ・ 福岡市農林水産局水産部水産振興課》

1 共働のきっかけ・必要性

(1)福岡市水産振興課がこの事業に取り組む理由

博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに、多種多様な漁業が営まれ、新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが、市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し、一部が海底ごみとなり、漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では、漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているものの、平成 27 年度に市内の漁業者を対象に実施した「漁家意識調査」では、多くの漁業者が海底ごみの増加を感じているなど、漁業者と行政だけでは解決が困難な状況であり、市民の協力が必要である。



(2) (一社)ふくおか FUN がこの事業を提案した理由

(一社)ふくおか FUN は、主にダイバーが中心となり、自主事業において市民に向けて博多湾の現状や課題を伝えてきた。今後、博多湾をこれまで以上に豊かな海にしていくために、市民意識の向上に向けた動きに注力していきたいと考えていたが、博多湾の実情を調査するにあたり、単体では漁業者や関係機関との協議及び調整が難しいことからこの事業を提案した。本事業を行うにあたって、(一社)ふくおか FUN は水中調査・撮影の技術を有していること、写真展やイベント等を通じた市民啓発の機会が多いこと、メディアとの関わりも深いことがこの事業に活かせると考えた。さらに、海底ごみ問題を大人にも子どもにも身近な問題として認識してもらえるよう市民啓発方法としてキャラクターの制作・活用をアイデア提案するなど、より効果の高い事業展開に関しての企画提案力があつた。

(3) 共働事業のきっかけ・必要性

これまで、(一社)ふくおか FUN 及び水産振興課では、それぞれが個々に博多湾の海底ごみ削減に向けた活動を行っているが、(一社)ふくおか FUN では漁業者や行政機関等との協議・調整が難しく、水産振興課では海底ごみの「見える化」のための実態把握(水中写真や映像の確保)が困難であった。

このため、日頃から福岡市漁協等との調整を行っている水産振興課と、水中調査・撮影の技術やビーチクリーンアップなどの環境保全・啓発活動について多くの実績があり、メディアとの関わりも深い(一社)ふくおかFUNが共働することで、多様な主体を巻き込んだ効果的な市民啓発を行うことができ、海底ごみ削減の動きを活性化することができる。

2 事業目的

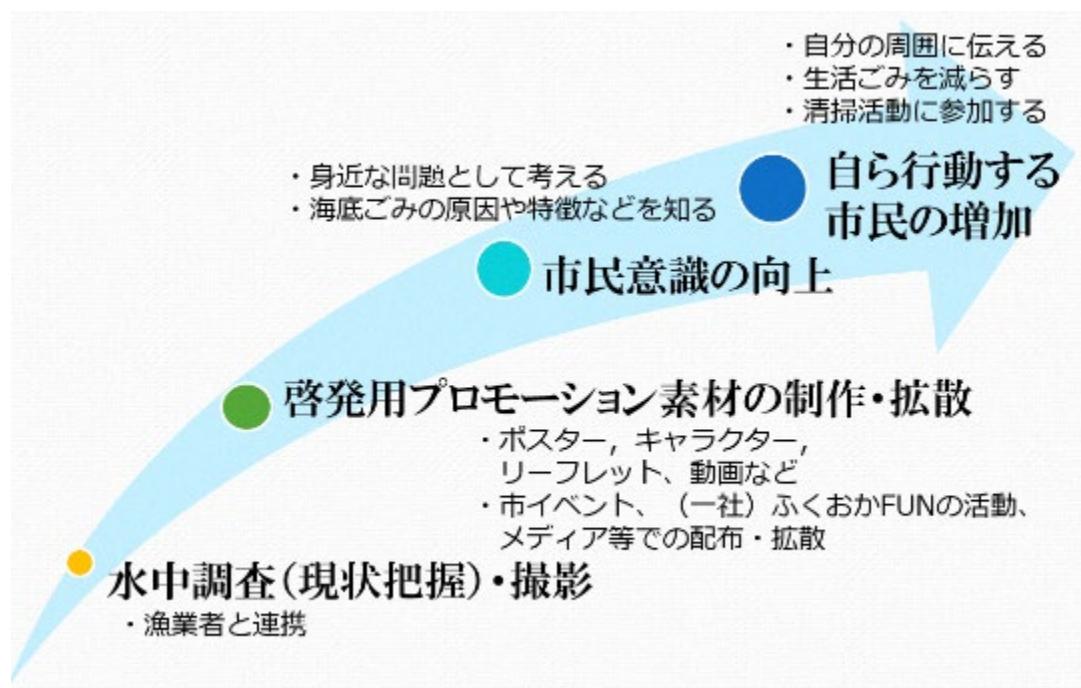
博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに、多種多様な漁業が営まれ、新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが、市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し、一部が海底ごみとなり、漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているが、回収されるごみの量は減少していないため、海底ごみ削減に向けた新たな取組みとして、海底ごみやごみそのものの発生を抑制するリデュースについての市民意識を高め、陸域から博多湾に流入するごみを減らし、漁場環境保全の観点から福岡の豊かな海を守る。

3 事業目標

【活動目標】

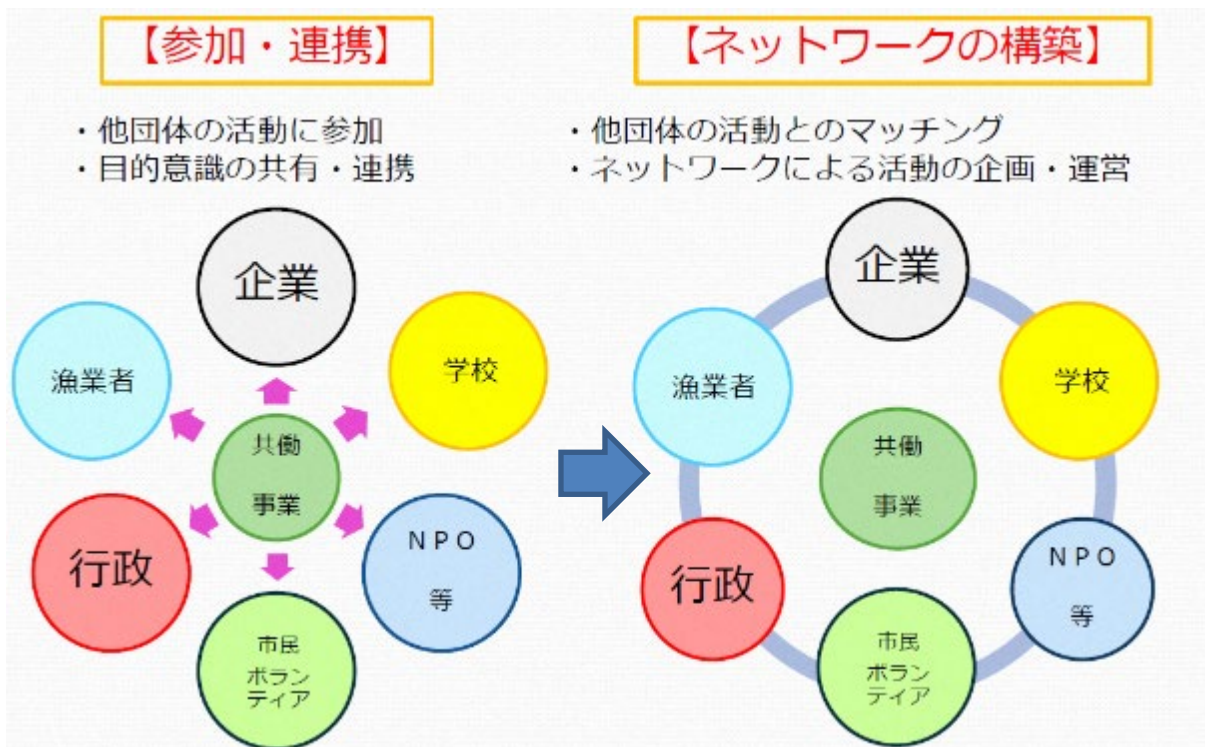
①博多湾の海底ごみの「見える化」

- ・博多湾内の水中調査・撮影を実施するとともに、海底ごみの分布状況や主なごみの種類等を把握し、啓発用プロモーション素材を制作する。
- ・制作したプロモーション素材を活用し、市や(一社)ふくおか FUN、他団体のイベントなどの様々な機会を捉え、効果的な広報・啓発を行う。



②他団体との連携

- ・他団体が実施する環境活動等に参加し、団体同士の繋がりを深める。
- ・NPO・行政・漁業者等多様な主体による海底ごみ削減のネットワーク構築を目指す。

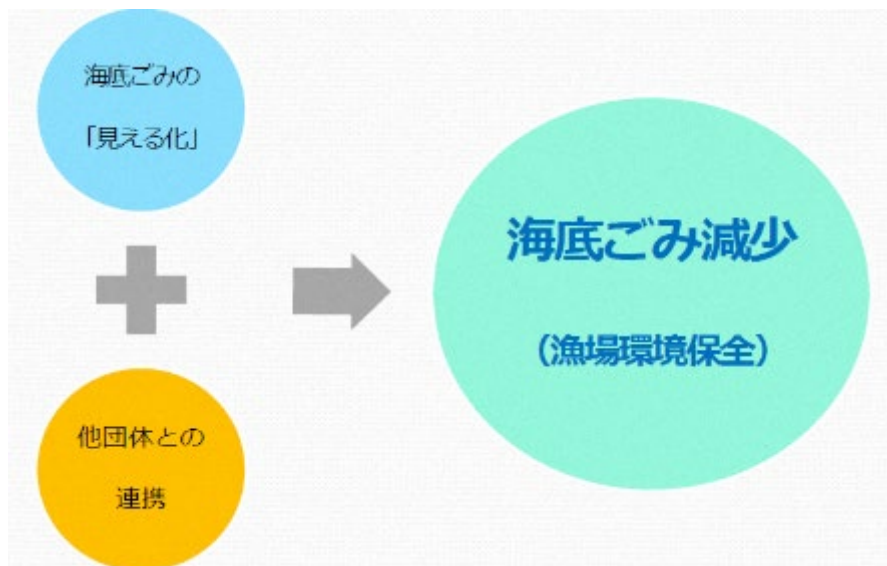


【成果指標】

| 成果指標 | 目標値 |
|--------------------------------------|------|
| 海底ごみについての市民意識 | 向上する |
| リデュースについての市民意識 | 向上する |
| 漁場環境に関する漁業者意識 (海底ごみの増加を感じる漁業者の割合) | 減少する |

【最終目標】

博多湾の海底ごみや、リデュースについての市民意識が高まり、陸域から博多湾に流入するごみが減ること
で、漁場環境が保全され、新鮮でおいしい魚介類が獲れる豊かな博多湾がより豊かになり、福岡市の水産業振
興に寄与する。



4 事業内容

令和3年度については、新型コロナウイルスの影響により啓発活動などの実施が困難な中、可能な限り、活動を行った。

1. 博多湾の海底ごみの「見える化」

(1) 啓発用プロモーション素材の拡散

今年度は、いままでに作成した、リーフレット、ポスター、クリアファイルを、機会を捉え拡散した。

啓発にあたっては、平成30年度にキャラクター化した「FUKUOKAおさかなレンジャー」を随所に活用し、大人にも子どもにもより身近な問題として捉えてもらえるよう工夫した。また、(一社)ふくおかFUNの自主事業においても海ごみ削減啓発のための動きに注力し、学校等での授業や市民向けの体験型活動、メディアへの出演、映像提供等を通じて、博多湾の現状を広く知ってもらうための機会を創出した。

●実施期間: 令和3年4月～令和3年8月

●啓発素材の拡散・新規啓発素材の進捗状況

・市役所庁舎内やマリンレジャー関係の施設、教育機関、民間企業等、リーフレットを約250部、ポスターを約20部、クリアファイルを約40部配布した。

2. 他団体との連携

博多湾に流入する河川(御笠川・那珂川)の流域市の行政職員を対象に、フォーラムを開催した。

●実施期間: 令和3年4月～令和3年8月

●実施回数: 計1回

●参加活動・啓発方法・啓発人数等 ※【 】内は連携団体

①7/1(金) FUKUOKA おさかなレンジャーフォーラム【福岡市漁協伊崎支所、大野城市、春日市、太宰府市、那珂川市】

参加者 22名

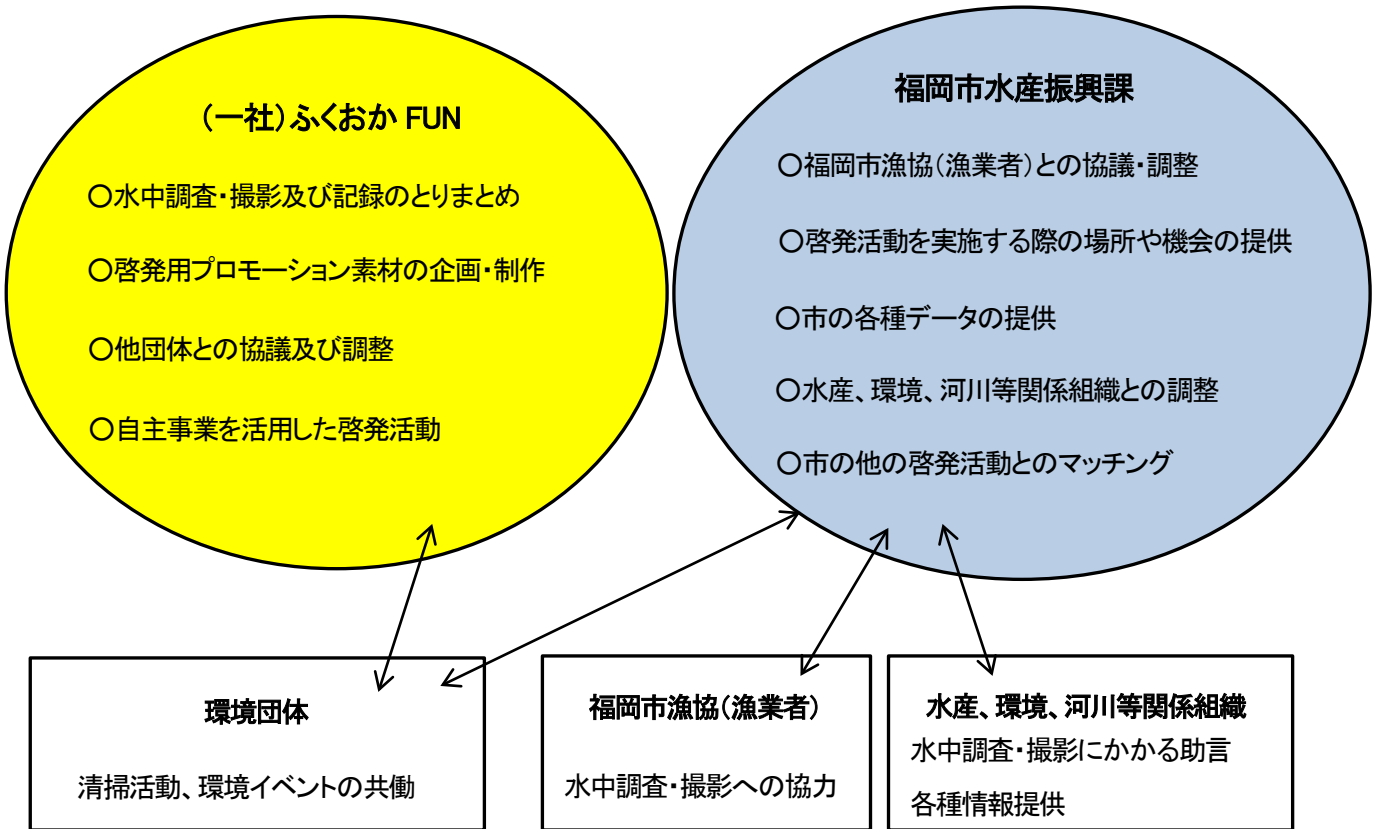


フォーラムの様子



フォーラム(フィールドワーク)の様子

5 (一社)ふくおか FUN と福岡市水産振興課の役割分担



6 参加者の声・担当者の声

(1) 参加者の声

他団体と連携した活動を行った際に以下のような感想が寄せられた。

「FUKUOKA おさかなレンジャーフォーラム」についてのアンケート回答(一部抜粋)

① 満足度理由(参加者全員から大変満足もしくは満足の回答をいただいた)

- ・博多湾のごみの現状には驚きました。川と海との関りを考えないといけないと思いました。
- ・他の自治体や団体の方とつながりをもてたこと。また、川と海がつながっていることを改めて認識できたこと。
- ・みんなで一緒に考え、意見交換ができ、他都市の職員たちと親近感が持てた。

② 博多湾のイメージ

- ・魚がおいしい
- ・外洋でないことを改めて知りました。いままでそこまで海底に“日本”のごみがあるとは認識していなかった。

③ フィールドワーク

- ・川が住民の方に身近な場所だと感じました。海まで意識してもらえたらいいなと思いました。
- ・地元の川を将来の世代にきれいなままつなげていきたい。
- ・他自治体での取り組みや漁業関係者の方のお話を聞いて、啓発のアプローチの参考になりました。
- ・フィールドワーク中の説明から、気候や水量等の状態でごみの漂着状況も異なるということを初めて知りました。

(2)担当者の声

①(一社)ふくおか FUN

- ・新型コロナウイルスの影響により、共働事業最終年度が一年延びたが、昨年度も博多湾の海底ごみ削減に向けた啓発や漁業者との連携を進めてきたことで、最終年度の事業も比較的スムーズに進めることができています。
- ・団体スタッフ、市職員、ともにお互いを尊重しながら意見を出し合い、事業をより良くするための協力体制を築くことができています。
- ・啓発や連携の対象範囲が「点」から「面」へと変化し、関係者も増えてきたことを実感している。今後は博多湾の海底ごみ削減に向けた動きをより活発化し、持続可能な方法を模索していきたい。

②福岡市水産振興課

- ・コロナ禍のなかで、思うように啓発活動ができていないが、初めて他自治体と連携を図るなど、可能な範囲で着実に活動ができていていると考える。
- ・フォーラムの参加市からは満足度の高い声をいただき、河川が博多湾とつながっているということ意識していただいた。
- ・世界的にもマイクロプラスチックなどの海洋プラスチック問題がクローズアップされていることから、これを契機と捉え、海底ごみやリデュースに関する市民啓発を図り、漁場環境保全の観点から、博多湾を守っていききたい。

7 最終年度の展開

最終年度は、共働事業の集大成として、これまで制作した啓発素材を活用し、福岡市内に加えて博多湾に流入する河川の流域市町にも範囲を広げ、海底ごみの「見える化」及び他団体との連携を進める。

また、多様な主体によるネットワークが中心となり、市民等が博多湾の海底ごみについて知り、考え、行動するための場づくりとして、海底ごみ削減に向けたイベントやフォーラムなどの企画・運営を行い、共働事業終了後の動きにつなげていく。

【事業計画】

(1)海底ごみの「見える化」

- ①啓発用プロモーション素材を活用した啓発

(2)他団体との連携

- ①他団体が実施する清掃活動等への参加・連携
- ②海底ごみ削減に向けたネットワークによる啓発活動の企画・運営